

広い魚倉に歓声

目黒区立
駒場小 遠洋マグロ船を見学

気仙沼



魚倉を見学する児童たち

気仙沼市と交流がある東京都目黒区立駒場小学校(福留潮校長)の5年生59人が、市内を巡りながら児童との交流や漁船の見学などを通して気仙沼の魅力に触れている。

東日本大震災後から大島小学校と毎年交流している。今年は22日から大島小学校の児童と交流。23日には、この字岸壁に停泊している福島県の遠洋マグロはえ縄船「第38漁福丸」(堀内勝船長、439

ト)の船内を見学した。案内役は、昨年駒場小で食育授業を行い、給食に「メカジキメンチコロッケ」を提供した「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」(白井壯太郎代表)が務めた。

児童たちは、白井代表から日本と気仙沼のマグロ船の操業の様子やはえ縄の仕掛け、大西洋のマグロの数が資源管理の成果で増えつつあることを教わった後、4班に分かれて船内を巡った。

操舵(そうだ)室でレーダーの説明や、漁場の赤道付近まで20日以上かけて目指すこと

を聞いたほか、零下60度でマグロを急速凍結する凍結室なども見学。広い魚倉では歓声を上げていた。

上條優希君は「漁船に乗るのは初めてで楽しかった。魚が好きなので、また気仙沼に来たい」と笑顔で話した。